

■事務局稼働日のお知らせ

事務局の稼働日は週1回水曜日となっております。ご不便をおかけいたしますがご了承ください。
8月17日(水)は夏期休業日とさせていただきます。

■Brain Gym® Day at Onlineを開催します

Brain Gym® Day at Online
秋にオンラインでブレインジムデイの開催を予定しています。
詳細は次号でお知らせいたします。

■日本限定ブレインジムカード、ブレインジムデイ記録集を販売しています



【1セット】 ¥3,500+税=¥3,850
【送料】 1セット 180円(スマートレター)
2~8セット 370円(レターパックライト)
9セット以上はヤマト便着払いとなります。



2017年
2018年
2019年版
各一冊 1,100円
送料 84円

【お問い合わせ】 事務局 jimukyoku@edu-k.jp



創造性を測定する

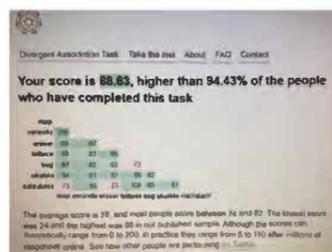
●<えでゆとく>は、知っているとちょっとお得な豆知識コーナーです

天田 武志 (神奈川)

私たちがよく使う言葉に「統合」があります。辞書で調べてみると「複数の諸要素が一定の方式に従って、相互に結合し秩序とまとまりをもった全体を形成する作用のこと」とあります。二つ以上のものをルールと秩序をもってまとめる、ということですね。
ところで創造性を発揮するとき、ルールや秩序から自発的に離れることが必要になる場合もあります。

ハーバード大学の研究者たちは創造性の高い人は、複数の単語を選ぶときに、秩序から離れた意味の遠い単語を選ぶだろうと仮説をたて実証を試みました。
たとえば「犬」と「猫」の組み合わせよりも「犬」と「本」の組み合わせのほうが意味が離れていると判断します。そして研究の結果、意味の遠い単語を選ぶ能力が高い人ほど、既存の創造性測定テストの成績も高いことが判明しました。さらに、単語選びで創造性を計測するテストも開発し The Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS) で報告されました。
(論文はこちら→ <https://www.pnas.org/doi/10.1073/pnas.2022340118>)

この単語選びテストは <https://www.datcreativity.com/task?> というサイトで受けることができるので、私もチャレンジしてみました!
その結果、私のスコアは 88.63 で、このタスクを完了した人の 94.43% を上回っています、とありました。さらに結果のページには『平均スコアは 78 で、ほとんどの人が 74 から 82 のスコアで、公開されたサンプルでは、最低スコアは 24 で、最高スコアは 96 でした。』と書かれていました。
平均スコアをちょっと越えていましたね。まあまあかな(笑)
バランス調整のプレアクティビティ&ポストアクティビティに使ってもおもしろいかもしれません。



えでゆけ vol.37

Edu-k Journal

Summer 2022



季刊(年4回発行) 発行: NPO法人日本教育キネシオロジー協会 事務局: 神奈川県横浜市神奈川区台町2-5-701 電話: 045-534-7148

「未来のために」ブレインジムができること⑮

「オンラインとブレインジムと私たち」

NPO法人発達サポート・アイビー 高田めぐみ・とよだひろこ・歌原香菜(大阪)



みなさんこんにちは!
NPO法人発達サポート・アイビーです。昨今の社会情勢からオンライン講座が一般的になり、日本教育キネシオロジー協会でも徐々にオンラインが取り入れられてきています。私たちも、2020年初めからオンラインを活用してブレインジムをお伝えする活動を数多く行ってきました。その中で感じたことや体験したことをご紹介します。

Q1. なぜオンラインでの活動を始めたの?

一番の理由は「対面での活動ができなくなったから」です。本当はイベントをやりたい!でもできない!じゃあどうしよう…となって、オンラインでやってみようか!という話になりました。元々 ZOOM を使ったり、オンラインでのやりとりで慣れてきたメンバーがいたこともチームでのオンライン活動に踏み入る事ができた要因の一つであったと思います。でも何より「新しいことに飛び込んでみよう!」という好奇心が後押ししてくれたのではないのでしょうか。

実際にやってみると、ブレインジムはオンラインで伝えやすいものということがわかりました。しかし対面よりも伝えられる情報は限定されるので、画面越しにどう見えているのか? しっかりと伝わっているのか? という確認や工夫にはかなり気を遣っています。

アイビーはメンバーが3人いた、ということも大きいですね。教える、モデルを示す、機器の操作をする、

参加者さんの様子を見る…などということをして1人でするのはとても大変です。役割分担をすることで、オンラインでも伝えたい情報が伝えやすくなることを実感しています。(最低2人は入るようにしています。)

Q2. オンラインの活動をしてみて大変だったこと、工夫が必要だったことは?

Q1にも書いたように「伝えられる情報が限定される」という課題を解決するための工夫は常に心がけています。対面では雰囲気や伝わることもあります。オンラインでは曖昧な提示の仕方では伝わりにくいということが大前提としてあります。なので、例えば、「手を置く所はこの辺り…」ではなく「鎖骨の〇cm くらい下の…」というように、口頭での説明を正確に細かくするようになりました。なるべく一般的な用語を使って説明をし、視覚的な資料で補うということも心がけています。それから、画面に映った自分を他人の目で見て、違和感やわかりにくいところがないかに気を付けるようにもしています。

Q3. オンライン活動をして良かったことは?

最大の利点としては、場所を選ばず本当に色々な地域から参加して下さるようになった事です。日本だけでなく海外の方とも繋がれるというのも嬉しいですね。わざわざ現地に行かなくてもよいので、家事や子育ての合間に参加して下さる方もたくさんいらっしゃいます。場所と時間に縛ら

れないということで、ブレインジムに触れていただく機会が増えていることを実感しています。何かを始める入り口として、オンラインはとても有効だと思えます。

オンラインに関して苦手意識を持っている方もいらっしゃると思いますが、まずは小さなことから始めて慣れていくことで、高いと思っていたハードルはどんどん下がっていきます。デジタルライトポリシーを守りながら、何ができるのか? どうしたらより楽しく伝えられるのか? ということを考え工夫していくことで、可能性はまだまだ広がっていきます。協会でもオンライン講座の機会を作ってくださいているので、ぜひ今後も新たな学びを続けていきたいと思えます。

対面・オンライン双方の良さがあります。お互いの良さを活かして、より多くの方にブレインジムの良さを伝えていけるよう、私たちがベストを尽くします!

